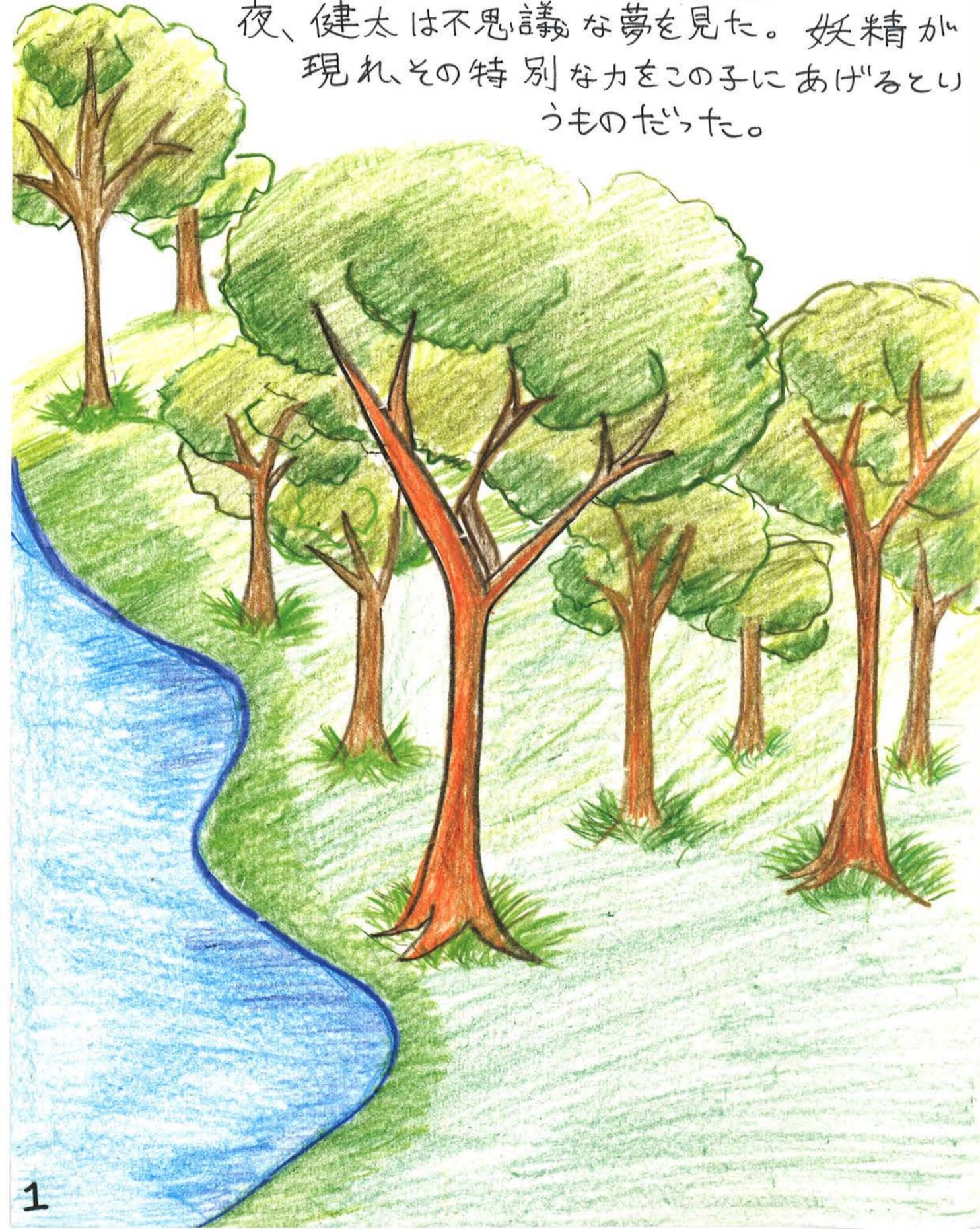




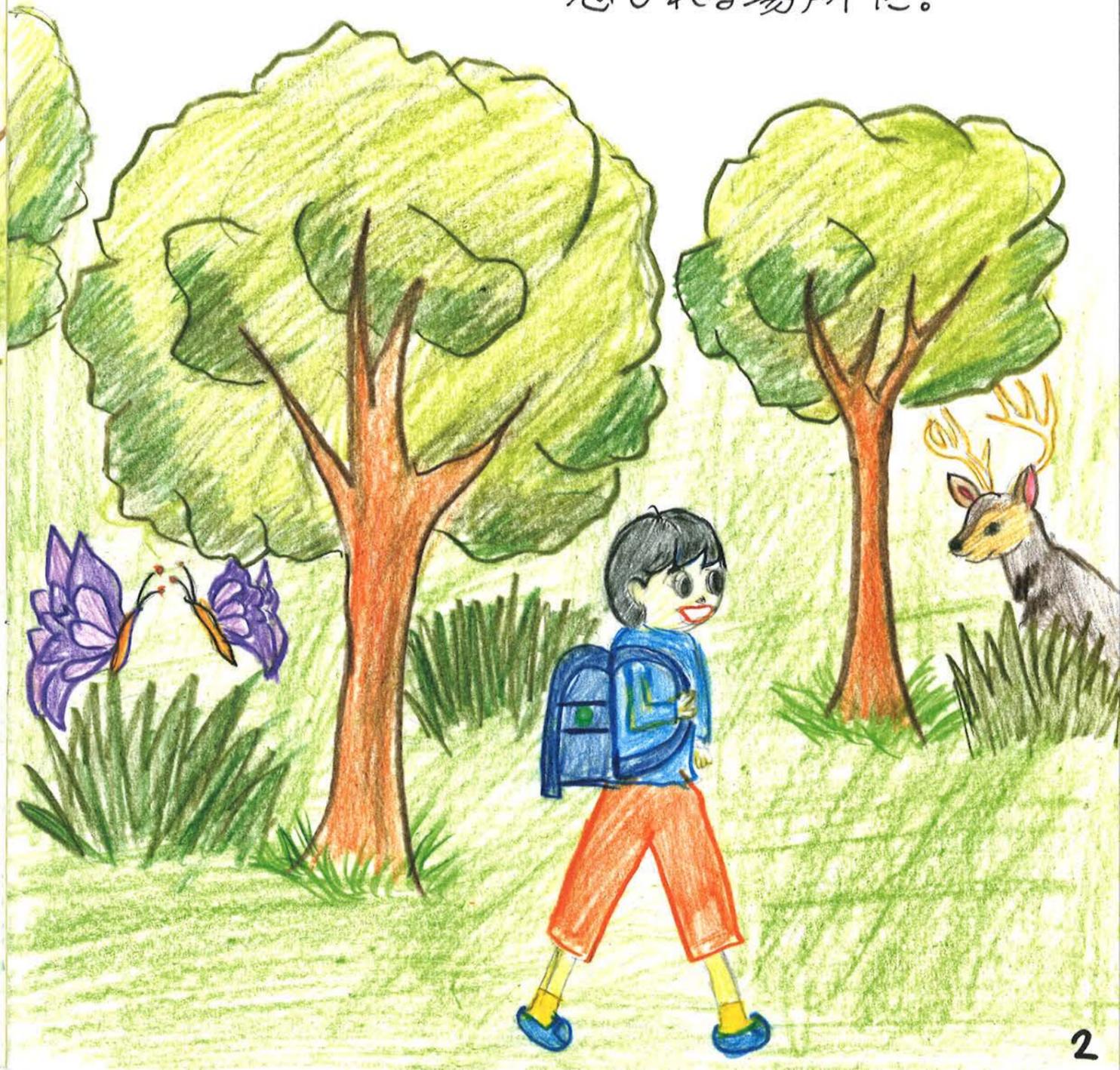
いつでも  
一緒に  
森と

北島佳怜

いつものように学校の帰り、健太は自分の大好きなお気に入りの場所、自然がいっぱいある森に行った。健太には不思議な力がある。動物と自由に話せる事だ。健太が産まれたある夜、健太は不思議な夢を見た。妖精が現れ、その特別な力をこの子にあげるというものだった。



健太は森に行く事が日課になり、学校が終わると一目散に森へと走って行った。その森林には大木があちろちらにあり、生き生きとしている。きれいな小川が流れ、耳をすませばさらさら流れる水の音や、小鳥の鳴き声が聞こえ、生きている事のすばらしさや力強さを感じられる場所だ。



しかしある日、健太は大切な大木に紙切れがはってある事に気がついた。ランドセルを下に置き、読み始めた。その紙には、「この森は、町を作るために買う。そして、全ての木を切る。」と書いてあり、健太はどうすればいいかすぐには分からなかった。



気持ちを落ちかせてからすぐ町に行き、町の人に聞いてみた。

「福田社長って本当に森林を伐採するんですか？」

「うん、そうらしいよ。森林はかいはね、なぜ進んでいくかという  
と、外国や、もちろん日本人も森を買って、いろんな事に使うからなんだ。例えばホテルや遊園地、ゴルフ場など広大な土地が必要でしょ？」



と、近所のおばさんが教えてくれた。



今度は他の人に聞いてみた。健太はとにかく自然をこわされ  
たくなかった。

「あの、昔から森には神様がいて本当ですか？」

「そうよ。だから昔からみんな大切にあの森を守り、木々を大切に  
育ててきたのよ。」

「でも何んで...」

「それはあの社長がお金持ちになりたいから。」



健太はすぐに森へまた走って行った。

頭の中はどうすればいいかで一杯で、  
いつもより早く走れなかった。



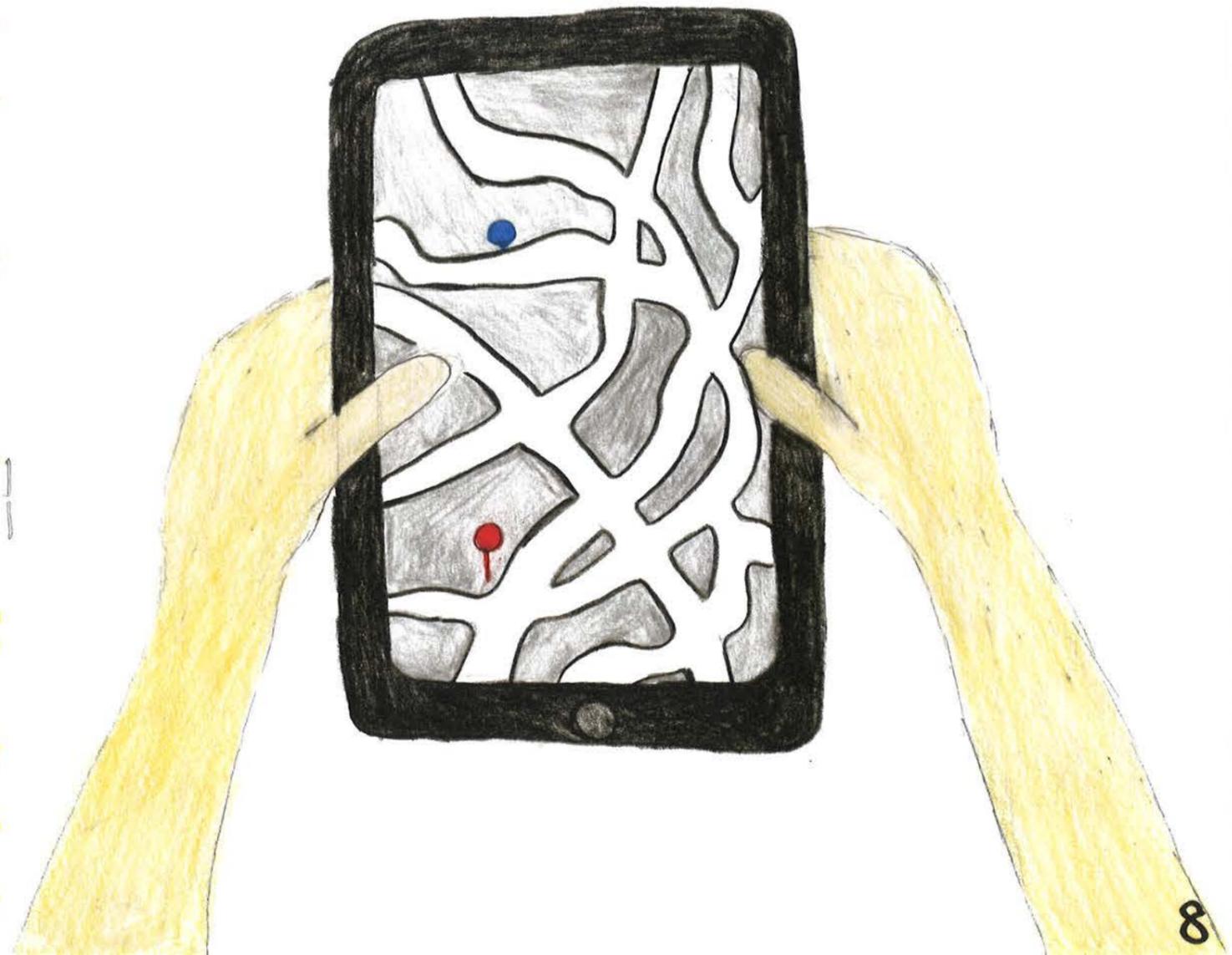
やっと健太は森に着き、動物達が聞いた。

「あの福田っていう人が森林伐採をするんだ！」  
それから話し合っ二時間後、健太はぱっと  
すばらしいアイデアがうかんできた。

「大木の上に、ツリーハウスを作ったらどう？  
たおれている木や間引きしないといけない木  
を使って。」

「あ、それはいいね！」

さっそく健太は電話で会社かどこにあるかを調べて向かって行った。健太はその間、どうか社長が自然をこわさないで、ツリーハウスを作る事に賛成してくれるように祈った。目の前には大きな建物があり、「福田工業」と書いてあった。ちょうど、社長はイベントを開いていて、みんなに町を作るという事を話していた。僕も話を聞いていたら、ほとんど全員が町を作る事に同意していた。



そこで僕が立ち上がり、自分の意見をぶつけた。

「君たちどうかしてるよ！もし自分が森に住む動物たちだったらどうなる？」

「食べる物がなくなったり、住む場所だってなくなるんだよ！人間だって、大雨がふったら地すべりがおこって、家がつぶれたりする。だから、もう弱くてたおれそうな木やもうすでにたおれている木を使い、ツリーハウスを使ったらどうかな？」

意見

それから話はずと続き、やっと最後の意見発表を社長が言うことになった。社長は何か大切かによく気がつき、健太の意見を受けとめた。

大々大

さっそくかわいい動物達とくらせるツリーハウスを福田社長が作り、みんな喜びで一杯だった。そして健太も、泣きながらうれしい気持ちで幸せだった。

「ねぇみんな！ 健太みたいな自然のヒーローになり、自然を残していこう！  
そのためには森の手入れをちゃんとしていこう！  
そうする事によって木は健康に育ていき、私達生きて  
いる物全てが、ありがたいめぐみ  
がもらえる。  
未来のためにがんばろう！！

本当は福田社長は、みんながくらしやすい町を作りたかったんだ。だから結局悪い人ではなかったんだ。



## 最後まで読んでくれてありがとう！



この絵本は、2017年に行った「WWFジャパン森林絵本コンテスト」で、優秀作に選ばれた作品を本にしたものです。

いま、豊かな森が減り、野生の生きものたちの数も少なくなっています。世界の環境を守る「WWFジャパン」では、森にすむ生きものたちに、いまだんな問題が起きていて、どうすれば良いのかを学んだ小学生の皆さんから「絵本」を募集しました。小学生の皆さんが、授業で、森や自然、野生動物について学んだことや気づいたことを「絵本」にして家族やお友達に知らせようと、一生けんめい工夫して物語を作ってくれたのです。

みなさんは、この絵本を読んでどう思いましたか？ 感想を、ぜひ家族や周りのお友達と話し合ってみてください。森や、そこにすむ生きものを守りながら暮らすにはどうすれば良いか考える人がたくさん増えることが、森や動物を守ることにつながるからです。

## 私たちにできることのヒント「FSC®」マーク

私たちが使う紙は、森の木から作られています。むやみに木を切ってしまうと、動物たちのすむ場所もなくなってしまうかもしれません。「FSC®」は、森の生きものや、周りに暮らしたり働いている人のことを考えて、きちんと管理された森や、そこから生まれた紙につけられるマークです。動物たちの暮らしにできるだけ負担をかけないように森を使うようにしているので、FSCマークがついたノートなどを使うことは「森を守りながら使う」ことにつながります。ぜひ、このマークを覚えてください。



## WWFって？

WWFは、100カ国以上で活動している地球環境保全団体です。1961年にスイスで設立されました。地球上の生物多様性の保全と、人の暮らしが自然環境や野生生物に与えている負荷の軽減を柱として活動しています。

現在、特に力を注いでいるのは、森や海などの生態系を保全すること、木材や魚介類など、自然資源の利用を持続可能なものにする、地球温暖化を防ぐこと。WWFのサポーターになることは、今すぐ、誰もが始められる環境保全です。人と自然が調和して生きられる未来を築くために、ぜひあなたの力を貸してください。



## WWF ジャパン (世界自然保護基金ジャパン)

<http://www.wwf.or.jp>

東京都港区芝 3-1-14-6F

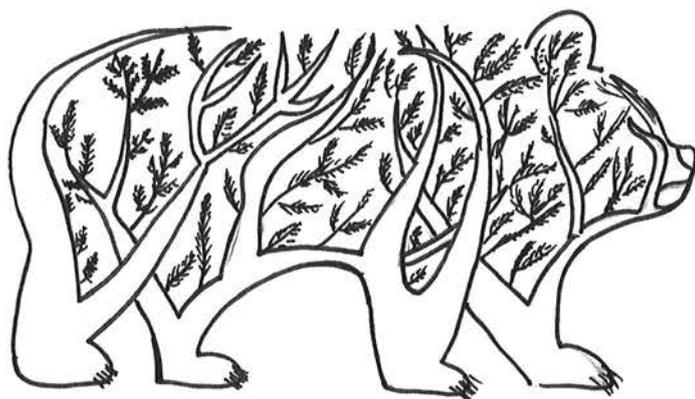
TEL: 03-3769-1241 (平日 10:00 ~ 17:00) Email: [hello@wwf.or.jp](mailto:hello@wwf.or.jp)

## 「WWF ジャパン森林絵本コンテスト」2017 実施概要

参加校  
 青山学院初等部  
 Okinawa AMICUS International  
 British School In Tokyo  
 Canadian Academy  
 Makuhari International School  
 New International School  
 Nishimachi International School

主催 WWFジャパン  
 協賛 王子ホールディングス株式会社  
 監修 堀井清毅 教諭  
 (Nishimachi International School)





「WWFジャパン森林絵本コンテスト 2017」受賞作品

この絵本は、王子ホールディングス株式会社のご支援により制作されました。

用紙提供：王子エフテックス株式会社

用紙名：OKミューズガリバーグロスハイホワイト 157 g/m<sup>2</sup>

印刷協力：文化堂印刷株式会社